第２次八尾市芸術文化振興プラン総括書　（課題・提案の概要）

資料４

【めざす暮らしの姿】　芸術文化との関わりの中で、心豊かな暮らしが創造されています

【目的１】市民が活き活きとする

【目標１】個性豊かな感性を育む
・基本方針①芸術文化を感じて、楽しむ機会をふやす
・基本方針②創作・表現する楽しみが広がる

【主な取り組み】
・大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会（大阪フィル地域拠点契約事業の中の本公演）
・文学座公演（文学座地域拠点契約事業の中の本公演）
・芸術文化振興によるにぎわい創出事業　宮川彬良＆シオンと「吹奏情話, 八尾」を演奏しよう！プロジェクト

【目標２】人と人との交流が広がる
・基本方針③市民が交流する場や自主的な活動を支援する

【主な取り組み】
・八尾市吹奏楽フェスティバル
・舞台・催し物づくり相談会「プリズムの窓」
・まちかどプリズム（市民の文化活動団体への発表の場の提供）
・10 館合同コミセンまつり、後援名義の承認

課　題

① 芸術文化を鑑賞する機会の提供

- より多くの市民が芸術文化の魅力に触れ、芸術文化が持つ力により日々の生活を豊かなものとするためには、まずは、芸術文化を鑑賞する機会を得ることが大切であるとの考えから、本市では、これまでプリズムホールを中心に鑑賞機会の提供に取り組んできた。しかし、芸術文化に親しんで心の豊かさを感じるときがある市民は７割程度であり、２次プランの目標数値と比べて低くなっている。
- この数値の向上に向けた方策の一つとして、世代や居住地域に関わらず、広く芸術文化を鑑賞する機会を提供し、芸術文化に親しんで心の豊かさを感じるときがある市民を増やしていくことが求められる。

② 芸術文化活動に関わる機会の増加

- 鑑賞と比べて、芸術文化活動をしている市民の割合は少ない。要因としては、鑑賞と比べて芸術文化活動に関わるためには相応の時間を要し、仕事や子育てなどによる時間の制約があることから、活動に取り組むことが難しいということが考えられる。
- 芸術文化活動に関わる市民を増やすためには、活動に興味ある市民が一歩を踏み出せるように、参加しやすい場所や機会を提供する等、事業の工夫により活動を後押ししていくことが必要と考えられる。
- 鑑賞とあわせて芸術文化活動に関する情報も積極的に提供することが求められる。

③ 市民の芸術文化活動の交流促進（点から線・面へ）

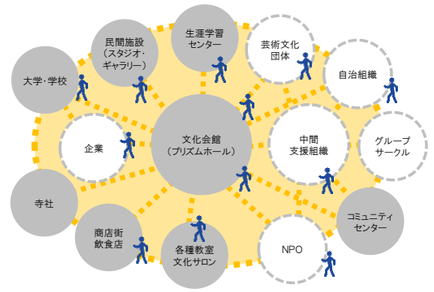
- プリズムホールを中心に芸術文化活動が行われているものの、それ以外の市内施設等の利用割合は少ない。
- プリズムホールは貸館による活動場所の提供という点では市民の芸術文化活動に寄与しているが、活動に関する相談や情報提供という点では十分支援できているとはいえない。
- それぞれの活動が「点」になっており、相互に交流がないという指摘があり、それぞれの活動を結びつけるような場所や仕組みが必要。

次期プランへの提案

- 市民に身近な場所や、時間帯を工夫した公演の実施など、市民が芸術文化を鑑賞する機会を得やすい環境を整備する。
- 市民それぞれが心の豊かさを感じる芸術文化は異なることから、多様なジャンル・内容の芸術文化を鑑賞する機会づくりを進める。
- あらゆる世代の市民に市の芸術文化情報が届くように、これまでの発信媒体に加え、ＳＮＳの活用や民間サイトとの連携等により、積極的な情報発信を行う。
- プリズムホールでの公演等への誘導を図り、テレビやインターネットでの鑑賞では味わえない生の芸術文化のすばらしさを伝える工夫をする。

- 通勤・通学している市民が参加しやすい夜間や休日の芸術文化活動の機会の拡充や、子どもや高齢者と一緒に参加できる機会の拡充に取り組む。
- 楽器に触れたり、ダンスを踊ったり、少しのことから芸術文化活動を体験できるワークショップ等の機会を拡充する。
- 鑑賞と同様、さまざまな媒体を活用して、芸術文化活動に関する情報を発信していく。

- 市民や市民活動団体が気軽に芸術文化活動に関する相談ができる窓口を設ける。
- 市民や市民活動団体が交流や情報収集ができるスペースを設ける。
- プリズムホールをはじめ、市内の文化施設やコミュニティセンター、さらには民間施設で行われている芸術文化活動の連携を促進する。**（下記イメージ図参照）**
- 市内の芸術文化活動として利用可能な公共・民間施設をデータベース化するとともに、各施設の交流を促し、情報共有や新たな活動づくりにつなげる。



■ **地域へのアウトリーチ事業の事例**

『まちかどプリズム』（文化会館指定管理事業）

【めざす暮らしの姿】　芸術文化との関わりの中で、心豊かな暮らしが創造されています

【目的２】豊かな社会を築く

【目標３】だれもが地域で芸術文化に参加できる環境を広げる
・基本方針④身近な場所で多様な芸術に親しむ機会と場を広げる
・基本方針⑤さまざまな人々が芸術文化に親しめる機会を提供する
・基本方針⑥子どもの芸術文化活動を応援する

【主な取り組み】
・リズム＠プリズム　アウトリーチ
・八尾シティーコンサート
　ランチタイムコンサート
・つくってみようよ！おしばい！～子どもを対象に実施し、お芝居をつくり、発表するワークショップ～

【目標４】地域社会が活性化する
・基本方針⑦芸術文化の力を活かし、まちづくりと連携した取り組みを広げる
・基本方針⑧市民、企業、地域団体からの支援を活発にする
・基本方針⑨芸術文化の専門家と連携する

【主な取り組み】
・リズム＠プリズム「ヤオトトマイ～八尾の音と舞をつむぐ～」におけるニッポンバラタナゴ高安研究会との連携（手作り楽器用木材の提供）
・プリズム市民サポーター活動
・八尾市文化賞等受賞者紹介事業

課　題

① 子どもが芸術文化に触れる機会の増加

- 市内小・中学校へのアウトリーチ事業や子育て世代に配慮した芸術文化の取り組みが増えてきているが、学校以外や中学校を卒業した後でも子どもたちが継続して芸術文化に触れる機会があることが望ましい。

【市民会議の意見】

- 子どもが芸術文化に触れる機会づくりは取り組めているもののM字カーブが存在し、30～40 歳代で芸術文化に触れる機会の数が落ち込んでしまう。
- プリズムホールが開館して30年以上が経過し、子どもの頃にプリズムホールで芸術文化を鑑賞した人が、その後リピーターになるのかを検証できる段階にきている。
- 子は親を見て成長するため、子どもだけに焦点を絞っても効果が得られない。芸術文化団体を増やす取り組みも効果的である。
- 学校とプリズムホールまでの距離の問題などがあり、低学年の児童にとっての利用機会は限られている。保護者をどう巻き込むかが重要である。　　など

② 性別や年齢、障がいの有無などに関わらず、誰もが身近に芸術文化に触れる機会の創出強化

- 年齢や性別、障がいの有無、子育てや介護の状況などに関わらず、市民が等しく芸術文化に触れる機会を持てることが大切である。
- 障がい者や高齢者、子育て世代に対する取り組みは広がっているが、今後、さらなる取り組みを進めていくためには、芸術文化施策の所管課だけでなく、庁内他部署と連携していくことが求められる。

【市民会議の意見】

- 芸術文化施策の所管課だけで取り組める話ではなく、庁内横断的に取り組んでいくことが求められるのではないか。

③ 八尾市と連携した専門家や企業等を有効活用

- 八尾市と連携する芸術文化の専門家数は増加しており、また、ふるさと納税やクラウドファンディングによる支援も増加傾向にある等、本市の芸術文化を支援する環境は整備されつつある。
- こうした芸術文化に対する支援の輪を効果的に活用していくことが求められる。

【市民会議の意見】

- 市民アンケートにおいて鑑賞経験したジャンルに映画鑑賞が多いが、街中の映画館での利用が多いため、プリズムホールでの事業と切り分けて考える必要がある。
- 企業との連携ではないが、プリズムホールと大阪フィルハーモニー交響楽団や文学座といった芸術団体との連携も実績としてある。

次期プランへの提案

- 各種学校と連携した、芸術文化を鑑賞・創造する機会をさらに拡充する。
- 学校以外でのアウトリーチ活動などにより、子どもが芸術文化に触れる機会を拡充する。

- 障がい者や高齢者、子育て世代が芸術文化に触れる機会をさらに拡充する。
- 芸術文化所管課が中心となり、庁内他部署と障がい者や高齢者、子育て世代に対する取り組みにおいて芸術文化を活用してもらえるように調整する。

- 本市と連携した芸術文化の専門家の活用を促進するため、市民・市民団体と専門家の交流促進や、マッチングの実施を図る。
- 本市の芸術文化活動を応援する企業の増加に向けた取り組みを進める（企業版ふるさと納税の活用等）。

【めざす暮らしの姿】　芸術文化との関わりの中で、心豊かな暮らしが創造されています

【目的３】魅力的なまちをつくる

【目標５】八尾の誇りとなる芸術文化を創造する
・基本方針⑩八尾らしさを見つける・創造する
・基本方針⑪芸術文化の担い手を育てる

【主な取り組み】
・まちで魅了する舞台（あなたを魅了する、アート×まちの素敵な関係）
・リズム@プリズム　「ヤオトトマイ～八尾の音と舞をつむぐ～」（公共ホール現代ダンス活性化支援事業）
・演劇助成事業「プリズム パートナーズ プロデュース」
・吹奏楽クリニック
・八尾市文化賞

【目標６】八尾の芸術文化の魅力を発信する
・基本方針⑫八尾の伝統や文化を伝える
・基本方針⑬芸術文化を魅力として活発に発信する

【主な取り組み】
・河内音頭やおフェスタ
・子ども河内音頭講座
・八尾河内音頭まつり
・「吹奏楽のまち　八尾」魅力発信事業
・月間イベントガイド「かわちかわら版」
・八尾プリズムホールイベントプレス「Pick uP! Prism」

課　題

① 芸術文化のまちの賑わいや観光への活用

- 河内音頭については、各地域での盆踊りをはじめ、「八尾河内音頭まつり」、「河内音頭やおフェスタ」等の取り組みも盛り上がりをみせ、八尾を代表する地域資源として定着してきている。一方で、魅力ある八尾の地域資源は他にも多数あることから、これらの魅力をまちの賑わいや観光につなげていくことが求められる。

【市民会議の意見】

- 国の施策とは別に八尾独自のブランディング施策を考えていくという方向性でもよい。その位置づけの中で経済と観光をリンクさせ、どのように文化に落とし込むのかを検討すべきである。
- お金をかけずにインパクトで攻める「話題性」もひとつの切り口である。　など

② インターネット等を活用した八尾の芸術文化の魅力発信

- 五大紙への記事掲載数が減少する一方、インターネットやＳＮＳ等での発信は増加している。
- ウィズコロナ時代ではオンラインでの公演の実施や情報発信が選択肢のひとつとして重視されることから、デジタル技術の積極的な活用により八尾市の芸術文化の魅力を発信していくことが求められる。

【市民会議の意見】

- アンケート調査では子育てで多忙な 30～50 歳代は芸術文化に触れる機会が少ないが、分かりやすくまとまった情報の提供やＳＮＳでの発信があれば、この世代にも情報が届くのではないか。
- ＦＭちゃおや八尾市観光協会の発信力に期待している。　　など

③ 八尾の誇りとなる芸術文化の創造

- 芸術文化活動に取り組む時間や余裕がない市民が多い現状があるものの、鑑賞だけでなく芸術文化活動に取り組む市民が増えることで、市民が生き生きとし、豊かな社会や魅力的なまちが実現されると考えられる。
- 鑑賞経験や芸術文化活動経験を有する市民のレベルアップを図り、本市の芸術文化の担い手となり、さらには、八尾の誇りとなる芸術文化を創造する人材となるように育成していくことが求められる。
- 「吹奏楽のまち八尾」の取り組みとして、「吹奏楽フェスティバル（八尾市内の中学校、高校、大学、社会人バンドが一同に会するイベント）」や市内中学校吹奏楽部の指導等を実施しているが、市民がプリズムホール以外でも吹奏楽に触れる機会が増え、吹奏楽が八尾の魅力の一つだと感じるようなまちづくりをめざしていく必要がある。

次期プランへの提案

- 河内音頭という魅力ある地域資源のさらなる活用により、まちの賑わいや観光につなげていく。
- 河内音頭以外の地域資源を発掘し、磨き上げるとともに、まちの賑わいや観光につなげていく。

■ 地域資源活用事例
『まちで魅了する舞台』（文化会館指定管理事業）

- ターゲットに相応しい情報媒体による情報の発信に取り組む。特に若い市民や市外に向けた、インターネット等を活用した情報発信に取り組む。
- 芸術文化公演のオンライン配信等、デジタル技術を活用した芸術文化振興の可能性を検討するとともに、必要な環境整備に取り組む。

- プリズムホールが実施する公演や市民の芸術文化活動に本市らしさを取り入れることで、シビック・プライド（わがまち意識）の醸成につなげていく。
- 公共施設はもとより民間施設とも連携し、プリズムホール以外に芸術文化振興の地域拠点をつくりだす。
- 目的１の「市民の芸術文化活動の交流促進」で記した提案内容の実施【再掲】
  - 市民や市民活動団体が気軽に芸術文化活動に関する相談ができる窓口を設ける。
  - 市民や市民活動団体が交流や情報収集ができるスペースを設ける。
  - プリズムホールをはじめ、市内の文化施設やコミュニティセンター、さらには民間施設で行われている芸術文化活動の連携を促進する。
  - 市内の芸術文化活動として利用可能な公共・民間施設をデータベース化するとともに、各施設の交流を促し、情報共有や新たな活動づくりにつなげる。

さらなる芸術文化の振興に向けて

目的１～３の課題の整理と次期プランへの提案

課　題　の　整　理

① 芸術文化を振興する意義の再確認

- 芸術文化を体験することは、人の心を活性化させ、地域社会や経済活動を活性化させる原動力となり、本市がめざす「成長」するまちづくりにつながる。
- 芸術文化を通じて多様な視点や異なる価値観に触れることで、互いの違いを尊重することを学ぶことができる。このことは、さまざまな世代や立場の市民との共生を進める本市にとって、非常に大切な点である。
- このような何にも代えがたい価値をもつ芸術文化をまちづくりに活かしていくためには、八尾の特徴や実情に合った方向性を示すとともに、市民の誰もが芸術文化を創造・表現・参加・享受できる環境の保障や、芸術文化の担い手の継続的な活動の保障を行っていく必要がある。

② 芸術文化振興に向けた方向性の共有

- 本市ではプランに基づき「八尾市芸術文化振興プラン推進市民会議」を設置する等、市民との協働により、芸術文化振興の現状の確認や今後の方向性を検討してきたが、ここでの検討内容や示された方向性が広く市民に共有されているわけではない。
- 国では文化芸術基本法が改正され、本市における鑑賞や芸術文化活動にも高まりが感じられるところであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、プリズムホールの大規模改修など、本市の芸術文化振興を取り巻く環境は大きく変化しており、あらためて、本市としての芸術文化振興のあり方を問い直す状況にある。
- 個々で芸術文化活動に関わる市民は存在するが、活動に関わる市民の拡大に向けた市としての取り組みは十分とはいえず、活動による“力”をどのようにまちづくりに活かしていくのかも明確に示せていない。
- プリズムホール以外にも、市内には鑑賞や芸術文化活動の拠点となる場所は存在し、それぞれで芸術文化の振興が図られているが、それらの動きが「点」になっており、市全体としての動きにはつながっていない。
- 本市の芸術文化振興施策として、プリズムホールでの各種事業やアウトリーチ事業以外にも市の各所属では芸術文化を活用した事業を実施しているが、相互の連携や交流が不十分である。

③ プランを推進していく仕組みと体制

- 「八尾市芸術文化振興プラン推進市民会議」では、プランの基本方針に沿って実施された具体的施策や事業の内容を検討し、意見として示してきたが、施策や事業の見直しに十分な役割を果たせたとはいえないところもある。
- プランにおける評価の仕組みをつくり、この仕組みに沿って評価を実施してきたところであるが、評価指標の数が多く、十分な評価につながらなかった側面がある。

【市民会議の意見】

- 文化政策は公共政策の１つ、あるいは中心に組み込まれるべき。
- 芸術文化を“振興”するというよりは、まちづくりの“基本”にするという考えの方が収まりがよい。押さえつけるというものではなく、内なるものを出していくというイメージの方がよいと思う。
- 市民の動きを盛り上げていく仕組みが必要。

次期プランへの提案

- 八尾市の芸術文化振興の方向性を市民や行政等で共有し、より力強く芸術文化振興を図っていくために、芸術文化振興に関する条例の制定を検討する。
- 市民会議を審議会へと発展強化するとともに、効果的なプランの進行管理方法を検討する。
- プランの進行管理について、評価指標の数の見直しや評価マネジメント手法の再検討をする。

第２次八尾市芸術文化振興プラン総括書　（社会動向・アンケート結果、事業評価の概要）

社会動向（国・府の方向性等）

１．国の動向

■文化芸術基本法改正

- 文化芸術は豊かな人間性を涵養（かんよう）し、創造力と感性を育む等、人間が人間らしく生きるための糧となるものであるとともに、国際化が進展する中にあって、自己認識の基点となり、個人の文化的な伝統を尊重する心を育てるものとしている。
- 国民がその年齢、障がいの有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず、等しく、文化芸術を鑑賞・参加・創造することができる環境整備を求めるとともに、児童生徒等に対する文化芸術に関する教育を重視している。
- 文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、社会的・経済的価値も含めた多様な価値を、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携させるよう配慮することも明記された。

■劇場法、文化観光推進法、障害者文化芸術活動推進法、文化財保護法の改正、文化経済戦略などにより、こうした側面が強化されている。

２．大阪府の動向

■第４次大阪府文化振興計画

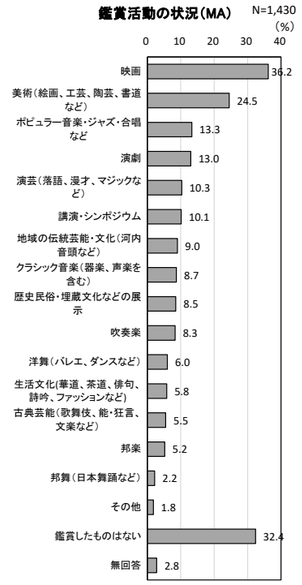
- 基本理念として、①あらゆる人々が文化を享受できる都市、②大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市、③あらゆる人々が文化を通じていきいきと活動できる都市の 3 つを定めている。
- 文化の振興施策を体系的に推進していくため、Ａ「文化創造の基盤づくり」、Ｂ「都市のための文化」、Ｃ「社会のための文化」の３つの基本方向を定めている。
- 推進に向けた大阪府の役割を、公益性が高いが収益性が低い事業や、基盤づくりや地域課題の改善・解決等の領域を中心に担うこととし、広域自治体として総合調整の役割を果たすことを明記している。

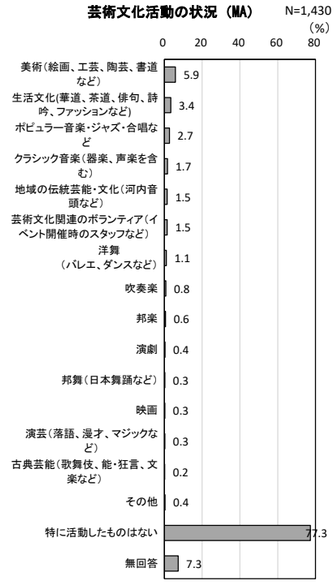
■大阪アーツカウンシルの取組状況

- 大阪アーツカウンシルは、大阪の文化行政を推進する新たな仕組みとして、平成 25 年に大阪府と大阪市が共同設置した大阪府市文化振興会議の常設部会で、「評価・審査」「調査」「企画」の三つの機能を通して、文化政策の専門性、透明性、公平性を確保することをミッションとしている。
- 全国の主な都道府県、政令指定都市の補助金・助成金制度や文化事業の調査、新型コロナウイルス感染症拡大の影響調査なども実施し、その結果を公表している。

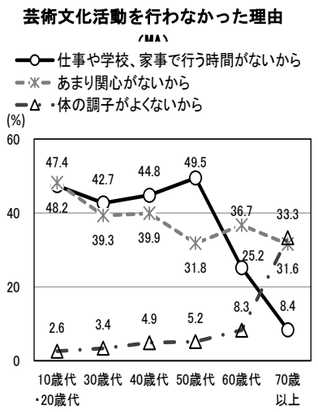
市民アンケート調査結果（H29）

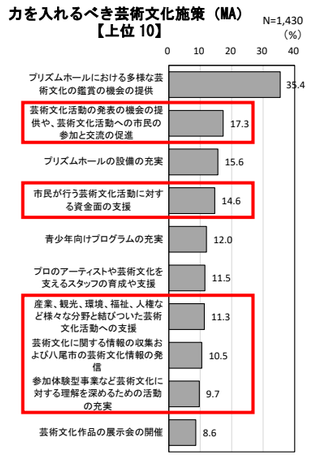
- 鑑賞活動をしている市民の割合は多いが、創造活動をしている市民の割合は少ない。
- 創造活動拠点としてはプリズムホールが 50%近くを占めているが、それ以外の市内施設等の利用の割合は少ない。





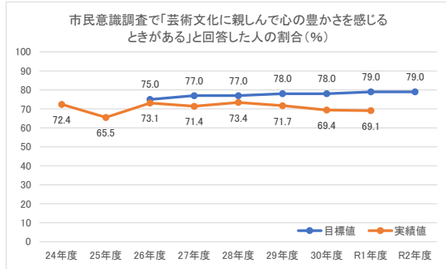
- 仕事や子育てで多忙な 30～50 歳代や、芸術文化に関心が低い男性、身体的理由で外出しづらい高齢者等が芸術文化に触れることができていない。
- 芸術文化活動をする市民割合は鑑賞に比べて少ないが、力を入れるべき芸術文化施策では、上位 10 のうち、5 つが芸術文化活動に関連するニーズとなっている。
- 芸術文化への関心が低い市民に対しては、様々な分野と結びついた鑑賞や芸術文化活動に関わる機会の提供が求められている。



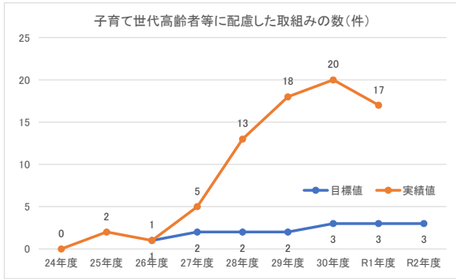
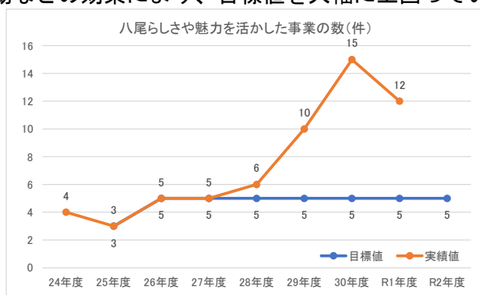


八尾市の芸術文化振興の評価

- プリズムホールの自主企画事業への入場者率は平均的に高いが、市全体で芸術文化に親しんで心の豊かさを感じる市民は減少傾向にあり、芸術文化に親しむ市民が限定されつつあることが想定される。
- プリズムホールで実施されるワークショップの満足度は高いが、市全体としては身近なコミュニティセンター等で開催される講座数は減少傾向にある。



- 学校や地域等で実施された事業数や、障がい者、高齢者、子育て世代に配慮した事業も目標値を上回っている。
- 芸術文化を活かした事業数や、芸術文化の専門家との連携も増加している。



- 八尾の誇りとなる芸術文化の創造については、八尾らしさを活かした事業も増加し、全国レベルで活躍する専門家も出てきている。
- プリズムホールが実施する地域文化に関する事業も増加し、地域文化の継承に貢献している。
- 五大紙への記事掲載数は減少する一方、市ＨＰ・プリズムホールＨＰへのアクセス数は、ＨＰのリニューアルやＳＮＳとの連動などの効果により、目標値を大幅に上回っている。